

## 執筆者紹介

### Ivo SMITS (イフォ・スミッツ)

ライデン大学教授(「日本文化」担当、Professor of Japanese Arts and Cultures)

ライデン大学文学部日本語日本文化学科卒業。東京大学大学院留学を経て、ライデン大学文学部博士課程修了。博士(文学)。早稲田大学客員研究員、ケンブリッジ大学研究生、イェール大学客員助教授、ライデン大学中東・アジア地域研究所(Leiden Institute for Area Studies)所長を経て現職。専攻は日本中古・中世文学であるが、日本映画にも興味あり。平安末期・鎌倉初期の和歌と漢詩や歌人・文人活動を中心に、文化史上の和漢比較文学や歌人と文人のネットワークを研究対象とする。主な論文・著書に「The way of the literati(文人の道)」(『Centers and Peripheries in Heian Japan』ハワイ大学出版会、2007)、『Dictionary of Sources of Classical Japan(日本古代文献史料辞典)』(共編、東京大学史料編纂所・国文学研究資料館賛助コレージュ・ド・フランス出版会、2006)、『Reading East Asian writing(東アジア文学を読む)』(共編、ラウトレッジRoutledge出版会、2003)、『日蘭交流四百年の歴史と展望』(共編、日蘭学会、2000)、「Song as cultural history: Reading *Wakan rôishû*(和漢朗詠集を読む)」(『Monumenta Nipponica』、2000)などがある。

### 解 璞(カイ・ハク)

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程在学中

北京郵電大学卒業。北京大学修士課程修了。早稲田大学アジア特別奨学金奨学生。専攻は、日本近代文学、日中近代比較文学。

### 丁 貴連(チョン・キリョン)

宇都宮大学国際学部教授・多文化公共圏センター副センター長

筑波大学大学院博士課程文芸言語研究科修了(文学博士)。明治学院大学非常勤講師を経て宇都宮大学国際学部に所属。2008年4月より現職。専門は比較文学比較文化・東アジアの中の日本文学日本文化研究。主要著書に『テキストたちの旅程—移動と変容の中の文学』(共著、花書院、2008)、『韓国文学はどこから来たのか』(共訳、白帝社、2005)、『近代韓国文学と日本』(共著、ソミョン出版、2003)などがある。

### 伊藤 博(イトウ・ヒロシ)

法政大学大学院(日本文学専攻)博士課程在学中

研究分野は日本近代文学。近年の論文に「『異端者の悲しみ』への一視角——中間者の飛躍」(『日本文学誌要』74号、2006・7)、「遁走する男の物語——葛西善哉『不能者』論」(『法政大学大学院紀要』第62号、2009・3)、「野口富士男の歩行小説——『ぶっちぎり』から『横顔』へ」(『野口富士男文庫 第11号』

越谷市立図書館、2009・3）、「貧困の逆説——葛西善蔵『賈物さげて』論」、『日本近代文学』第80号、2009・5）などがある。

### 大澤 聡 (オオサワ・サトシ)

日本学術振興会特別研究員

東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位修得退学。研究分野は、日本近代文学／メディア史。近年の論文に、「論壇時評」の誕生——一九三〇年代日本のジャーナリズム空間（『出版研究』第39号、2009）、「固有名消費とメディア論的政治——文芸復興期の座談会」（『昭和文学研究』第58集、2009）、「雑誌『経済往来』の履歴——誌面構成と編集体制」（『メディア史研究』第25号、2009）、「対話」の条件——大江健三郎「おかしな二人組」三部作（『言語態』第9号、2009）、「脱神聖化する文学領域——大宅壮一の文壇ジャーナリズム論」（『日本文学』第57巻第1号、2008）などがある。

### 木村 尚志 (キムラ・タカシ)

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程在学中

東京大学文学部卒。中世文学専攻。鎌倉時代における東国と京の和歌文化の相関がテーマ。主要論文に「宗尊親王の和歌—先行歌からの表現摂取の様相—」（『東京大学国文学論集』・第3号、2008）「中世の旅と歌枕—浜名の橋を中心に—」（『国語と国文学』・第86巻第6号、2009）、「宗尊親王の和歌と『萬葉集』」（『中世文学』・第54号、2009）がある。

### Anita KHANNA (アニタ・カンナ)

ネルー大学教授

ネルー大学博士課程修了。文学博士。同大学講師、助教授、准教授を経て現職。主要論文に「ジャータカ物語に見られる異界観」（小松和彦編『日本人の異界観』、せりか書房、2006）、「IMAGE OF INDIA AS DEPICTED IN KONJAKU MONOGATARI-SHU」（今昔に見られる天竺の描写）（PA.GEORGE Edited EAST ASIAN LITERATURE; An Interface with India, Published by NORTHERN BOOK CENTRE（英語）2006）、「デタラメ国の馬鹿殿様—」（バラテンドウ・ハリシュチャンドラ作戯曲の翻案・訳）（チャンパの花、第7号、2006）、訳書に「紀秀信編仏像図彙」の英語訳（D.K.Print World, Delhi、2009-10）、「終わりの始まり」（有馬氏の詩のヒンデイ語訳、共訳、2008）などがある。

### 山崎 佳代子 (ヤマサキ・カヨコ)

ベオグラード大学日本語日本文学専攻課程教授、詩人、翻訳家

北海道大学文学部（ロシア文学専攻）卒業。サラエボ大学、リュブリャナ民族音楽研究所留学を経てベオグラード大学文学部日本語日本文学専攻課程教官。同大学文学部にて博士号取得。主な研究書に*Japanska avangardna poezija*（『日

本アヴァンギャルド詩』、Filip Višnjić, Beograd, 2004、283頁)、邦文の論文に「セルビアにおける前衛詩運動と日本の詩歌」(『国文学』、2005・9、56-63頁)など。セルビア語による日本文学に関する論文多数。訳書に谷川俊太郎の翻訳詩集Dete na stepeništu (Rad, Beograd, 2008)、ダニロ・キシユの『庭、灰』(河出書房新社池澤夏樹個人世界文学全集所収、2009)など。その他、著書には詩集『アトス、しずかな旅人』(書肆山田、2008)などがある。

### 崔 世卿 (チェ・セキョン)

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程在学中

韓国・祥明大学日本語教育科卒。同大学院修士課程修了。祥明大学、弘益大学、龍仁大学非常勤講師を歴任。研究分野は、西脇順三郎を中心とした日本および韓国の近現代詩。著述に「同時代の詩としての韓国現代詩」(『現代詩手帳』2007・8)、学会発表に「『Ambarvalia (アンバルワリア)』と『あむばるわりあ』論」(韓国日本学連合会第4回国際学術大会、2006・7)、「『旅人かへらず』論」(韓国日本語教育学会第48回国際学術大会、2008・3)など。訳書に吉増剛造と高銀の往復書簡『「アジア」の渚で』(共訳、藤原書店、2005)がある。

### Matilde MASTRANGELO (マティルデ・マストランジェロ)

サピエンツァ・ローマ大学東洋研究学部日本語日本文学准教授

ナポリ東洋大学卒業。同大学博士号取得。東京大学表象文化論修士号取得。サピエンツァ・ローマ大学非常勤講師を経て現職。担当科目は日本語。主な研究テーマは森鷗外及び日本の伝統話芸。鷗外については、歴史小説及びドイツ三部作に関して翻訳、論文執筆。『ロマンティチスム及び無常。森鷗外のドイツ三部作』(Go book、2008)。話芸については講談、落語研究の傍ら、三遊亭円朝の作品を研究。特に円朝の翻案物及び怪談話を対象とし、『名人くらべ』に関する論文(The Japan Foundation Newsletter, XXIX, 2002・2及び本稿注⑧参照)執筆。『牡丹燈籠』の翻訳は2010年出版予定。他に『日本語文法』(Hoeppli, 2006)。

### 李 賢貞 (イ・ヒョンジョン)

高麗大学大学院博士課程在学中。同大学非常勤講師

韓国明知大学日本文学学科卒業。韓国梨花女子大学韓国国文学卒業。東京大学大学院比較文学比較文化修士課程修了。専攻は近世文学。研究分野は黙阿弥歌舞伎。主な論文に「黙阿弥歌舞伎における明治の視覚化」(『韓国日本文化学会』37号、2008年)、「모쿠아미 시라나미물에 나타난 의적의 형상화 (黙阿弥白波物に描かれた義賊)」(『日本語文学』45集、2009年)などがある。

### 陳 可冉 (チン・カゼン)

総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻博士後期課程在学中

四川外国語学院日本語学部講師。専攻は日本近世漢文学、俳文学と漢文学。修士論文は「『おくのほそ道』における漢詩文利用の研究——出典研究の延長として」。

**王 曉瑞** (オウ・ショウハイ)

総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻博士後期課程在学中

鳴門教育大学大学院学校教育研究科修士課程修了。主に近世後末期の和歌を研究。研究テーマは「橘曙覧和歌の研究—和漢の影響を通して—」。

**李 忠濂** (イー・チュンホ)

東京大学大学院総合文化研究科博士課程在学中

高麗大学日語日文学科卒業。高麗大学大学院日語日文学科卒業。研究分野は日本近世文学。論文に、『『好色五人女』の女性観』（高麗大学日本研究会編『日本研究』第2号、2003年2月）、「江戸の楠正成像—浮世草子における好色化と当世化を中心に—」（『江戸文学』第41号特集「軍記・軍書」、2009年10月、ペリカン社）。

**Robert GOREE** (ロバート・ゴーリ)

イェール大学東アジア言語文学部博士課程在学中

東京大学比較文学比較文化研究室研究生。専門は日本文学、特に近世文学。博士論文では、名所案内記の一種である名所図会という書物を採り上げ、学際的な立場から、何のために出版されたのか、どのような原則によって編纂されたのか、また、なぜベストセラーになったのかを考察し、名所図会そのものの歴史を物語るような研究を目指す。